

平成29年度
第1回千葉県総合教育会議

事例発表
「訪問相談担当教員としての取組」

金子 周子

活動状況（平成28年度の場合）

・相談依頼数	52名
・訪問面接数	735回
・会議出席等	20回
・電話対応	546件
好転数	(延べ) 51名

①早期支援により、家庭にひきこもることなく、適応支援教室等の支援を受け、登校復帰でき、解消しているケース

- ・ 中学校1年生男子
- ・ 30日以上長期欠席・部屋に籠もりがち・姉の症状が影響・発達障害の傾向
- ・ 家族構成…母（勤務） 姉（高校生、精神疾患） 本人 計3名
- ・ 支援者…学校職員、訪問相談担当教員、スクールカウンセラー、市適応指導教室



②医療や福祉関係機関につなぐことで、効果が上がったケース

- ・ 小学校3年生女子
- ・ 学校生活での出来事をきっかけとして欠席がちに。その後摂食障害発症。
- ・ 内臓疾患による長期入院治療経験あり。成績は良く、こだわり強い。
- ・ 家族構成…父（会社員） 母（会社員） 姉（高校生） 本人 計4名
- ・ 経済的に良好な家庭
- ・ 母親への支援が不可欠な状況
- ・ 支援者…学校職員、訪問相談担当教員、医療



③学校がスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しながら、家庭を支え、登校復帰につながったケース

- ・ 中学校3年生男子
- ・ 経済的困窮。同世代交流の困難さ。不衛生な生活。登校不安定。
- ・ 家族構成…母（知的障害） 祖母（無職） 本人 計3名
- ・ 支援者…学校職員、ソーシャルワーカー、スクールカウンセラー



④様々な障壁により、思うような支援ができずに苦慮したケース（引きこもりの事例）

- ・ 中学校1年生女子
- ・ 他市小学校時代不登校。中学校入学するも学校職員は面会できない。
- ・ 学校は保護者と一度学校で面接実施。その後は、家庭訪問や電話を拒絶。
- ・ 保護者は、スクールカウンセラーや福祉部の支援も拒絶。
- ・ 家族構成…父（会社員）、母（精神疾患）、姉と兄（高校生）、本人 計5名
- ・ 本人は、対人恐怖症の傾向、口数極めて少ない、手仕事を好む。
- ・ 経済的には余裕がある。父親は長期単身赴任。整頓がゆきとどいた部屋。



忘れられない男子不登校生徒の言葉

君の将来の夢は何かな？

「先生、僕は将来の夢なんて考えたことないです。

僕は、ただ今日を生き抜きたい。」